

## 【解 答】

### 盲腸癌術後脾門部再発

解説：

本症例は、脾門部に認められた乏血性腫瘍であり、血液検査上 sIL-2 receptor 値の上昇を認めた。悪性リンパ腫、盲腸癌術後再発を鑑別診断に挙げ、治療および組織診断目的も兼ねて腹腔鏡下脾尾部切除が施行された。切除された腫瘍は、肉眼的に 32×20×12mm の灰白色調病変であり、脾門部に認められた (Figure 3)。組織学的には、類円形から楕円形腫大核と好酸性胞体を有する viable な腸型の円柱状腫瘍細胞が、壊死をともない、癒合管状に浸潤・増殖する像が認められた。既往の盲腸

癌切除検体と類似した所見であり、盲腸癌からの転移として矛盾しない所見であった (Figure 4)。腫瘍は脾門部を主体に脾尾部に及んでいた。また、脾被膜を超えて脾実質への直接的な浸潤もわずかにみられたが、転移巣にリンパ節転移を思わせる像はなかった。

本症例の転移様式は、血行性あるいは播種が考えられる。結腸癌の脾臓転移は 4.4% と報告されている<sup>1)</sup>が、脾門部転移については正確な頻度が不明である。PubMed にて“colorectal cancer”, “splenic hilum” と検索したが、本症例と類似した症例の報告はなかった。

結腸癌の脾転移では、多臓器転移をきたしていることが多く、孤発性脾転移はまれである<sup>2)</sup>。孤発性の場合、手術による切除が有効とする報告が散見されるが<sup>3)~5)</sup>、非孤発性脾転移症例も切除による

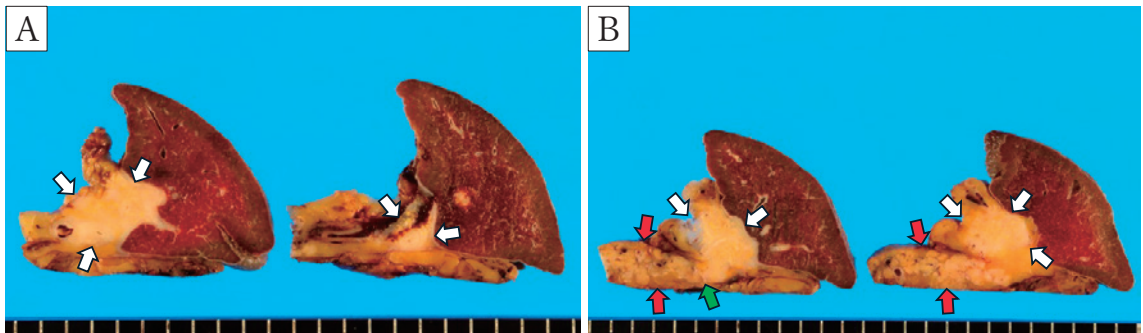


Figure 3. 病理標本：脾門部に黄白色調の腫瘍が結節状、境界やや不明瞭にみられ、脾尾部、また脾被膜に接していた。白矢印が腫瘍、赤矢印が脾臓を示す。緑矢印が腫瘍と脾の境界で、不明瞭になっている。

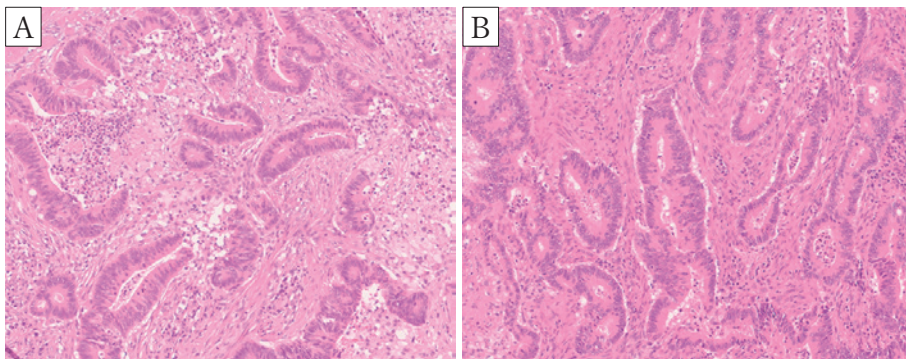


Figure 4. 組織所見 A) 脾門部腫瘍, B) 盲腸癌。脾門部の腫瘍細胞は壊死がやや強いが、いずれにも類似の癌細胞の管状増殖が認められた。

長期生存報告がある<sup>6)</sup>。生検による診断が得られれば化学療法も考慮されるが、脾生検は出血のリスクがあり<sup>7)</sup>、適応は慎重に決めるべきである。

本症例では術前組織診断が得られなかった。転移再発部としては前述のごとくまれであること、および悪性リンパ腫との鑑別が必要であるために、脾尾部切除が施行された。転移巣切除後1年無再発生存しているが、引き続き慎重な経過観察が必要と考えられる。

参考文献：

- 1) Berge T: Splenic metastases. Frequencies and patterns. *Acta Pathol Microbiol Scand A* 82; 499-506: 1974
- 2) Abdou J, Omor Y, Boutayeb S, et al: Isolated splenic metastasis from colon cancer: Case report. *World J Gastroenterol* 22; 4610-4614: 2016
- 3) Place RJ: Isolated colon cancer metastasis to the spleen. *Am Surg* 67; 454-457: 2001
- 4) Pavlović M, Separović R, Vukelić-Marković M, et al: Isolated splenic metastasis from colorectal carcinoma in a high risk patient: a case report. *Coll Antropol* 35; 1307-1310: 2011

- 5) Lucke-Wold B 3rd, Bonasso PC, Turner R, et al: Adenocarcinoma of the Cecum with Rare Splenic Metastasis. *W V Med J* 113; 32-34: 2017
- 6) 渡邊 光, 大澤日出樹, 安政啓吾, 他: 大腸癌非孤立性脾転移の2切除例. *癌と化学療法* 44; 1132-1134: 2017
- 7) Kobayashi K, Einama T, Fujinuma I, et al: A rare case of isolated splenic sarcoidosis: A case report and literature review. *Mol Clin Oncol* 14; 22: 2021

本論文内容に関連する著者の利益相反  
：なし

出題：小林 和貴 (防衛医科大学校病院  
外科学講座 3)  
高尾 幹也 (                   〃                   )  
永生 高広 (                   〃                   )  
緒方   衝 (防衛医科大学校  
臨床医学検査講座)  
恒成   崇純 (防衛医科大学校病院  
外科学講座 3)  
岸   庸二 (                   〃                   )